

国際地盤工学会第14回東南アジア学会に出席して

池谷 浩*

2001年12月10日～14日香港で表記の国際会議が開催された。この中で特にワークショップとして広島1999年災害をとりあげたいので協力してほしいと声をかけられたのは今年の春であった。広島大学の佐々木教授が東南アジア学会の役員であったことから特別プログラムをセットするとの事であり、国土交通省とも相談の上発表することにした。

その後に第3回世界水フォーラム土砂委員会が設置され、その仕事で海外出張があるとは考えもせず、本省近藤保全課長との連名発表の準備をした。

結果的には世界水フォーラム土砂委員会の中南米地域会議の段取りを決めて帰国後すぐにあわただしく香港へと旅立つことになった。疲労で声が出るか心配の旅であったが無事発表を終え帰国した。

A.T.C.3.ワークショップと名づけられたプログラムは12月12日9時香港大学Malone教授の開会挨拶にはじまり、21の論文発表と2つのデモンストレーションが1日かけて行われた。

今回発表した論文はOn the New Measures for Sediment Disasters Based on the Hiroshima Sediment Disaster of 1999と題したものであったが発表ではまず砂防とはどのようなものかを説明し、ハード、ソフト総合的な対応を法律によって実施するシステムが出来上がったこと、その理由の一つとして近年になって砂防技術による科学的に公平なゾーニングの設定が可能になったことなどを説明した。

発表を終わってから香港の技術者とポルトガルの大学の先生とから質問があった。

香港特別行政区政府土木局の技術者Pang氏からは

- ① このゾーニングで地価が下がらないか
- ② この法律に対し開発業者は反対しなかったのかとの質問であり、ともに心配したことはなかった旨の答をした。これに対してPang氏からは、香港ではとてもできないだろうという感想があった。

ポルトガルのマデイラ大学Rodrigues先生からは砂防事業への質問で、自国でも土石流で困っている



が良い対策について教えてほしいとのこと。

具体的に話を聞くと砂礫型もしくは土砂流に近い土石流が発生し、住宅の上流側



にある橋の付近で堆積し、後続流が街中に氾濫するとの事、そこで橋の上流側にオープンスペースを設けることと後続流が流れやすいように流路を設けておくことを提案しておいた。

私の発表の他にも多くの発表があった。特に香港特別行政区では5000近い地すべり(がけくずれと言った方がよりよいと思うが)に対しモニタリングシステムをつくり、雨によるモニタリングを実施している。

また道路や家屋の近くに図のような危険ヶ所の標識を設置して注意を喚起している。またデモの間にはTVのコマーシャルのような注意VTRが紹介された。

今後の雨の予測も実施していて、主にソフト面での対応がすすんでいる。

それでも斜面の崩壊災害が発生しているとの報告があり、今後我が国とはがけくずれ対策の面での技術交流が望まれるところである。

ワークショップは12月12日の9時～18時まで昼食の1時間と20分程度のコーヒープレイク2回だけの真面目な会議に出席して改めて疲れを感じているところである。

* (財)砂防・地すべり技術センター専務理事